



児童合唱団「かかみのキッズ」のさわやかな歌声

十一月四日(土)、各務小体育館で開かれた恒例の交流行事「村国の郷ふれあいの集い」は今回で第四回を迎えました。回を追うごとに内容が充実し、見ごたえあるステージが繰り広げられました。約七百人の来場者が音楽や踊りを楽しみながら交流を深め、最後にはプログラムナンバーによるお楽しみ抽選会もあって、終始賑わいを見せていました。

「第4回 村国の郷ふれあいの集い」



息をのむ迫力で来場者を圧倒「各務原太鼓保存会」



県下有数の実力「鶴沼中吹奏楽部」の演奏

地区社協
だより

村国の郷

第46号

編集・発行
各務地区社会福祉協議会



外山貴一さんの生歌で華やかに須恵器音頭

行事の様子は新聞報道されたほか、CCネットスペース(六十分放送)で二月十五日から二週間、毎日放映されました。この取り組みが地域の行事として定着し、多くの人々にふれあいの場、楽しみ場として親しんでいただけるようになります。

各務の歴史

連載②

「村国神社の神階について」

文：上村 南耀



村国神社

御旅所

明治時代になると神社の神階は廃止されました。しかし、今でも時折「正二位〇〇神社」「式内社〇〇神社」の標柱を見かけます。この二種類は納得できる肩書です。驚くのは「式外社〇〇神社」の標柱まで見かけることです。肩書の好きな本邦の国民が、神様にも肩書を付け、しかも大変な誤解の産物である自慢にならない肩書を付けている面白い現象

です。各務地区を語るとき決して落とすはならない古代の著名氏族に村国 連氏がいます。最初は姓を持たない地方の一族でしたが、壬申の乱の功績により「連」の姓の名乗りを許されました。そして官人として中央へ進出しました。各務郡には氏族名と同じ郷名の村国郷が置かれました。各地の村国郷の存在を念頭に置く、郷名から氏族を名乗ったのではなく、村国氏が勢力を持っていた郷が村国郷と呼ばれたものといえましょう。さて、「延喜式神名帳」は、各務郡に「村国」を冠に持つ村国神社二座と村国真皇田神社二座がおかれていたことを示しています。「延喜式神名帳」に記載された神社は、村国神社二座を含めて各務郡に七社あったこととなります。郡郷里の行政区画から成っていた当時の各務郡の中で「郷」を代表する産土の神社でした。壬申の乱の功績者やその子孫たちは、持統天皇やその血族である後の天皇たちによって、事あるごとに褒賞を受けました。この褒賞の裏には、感謝の念とともに、彼らの忠誠心を喚起して政権基盤の背景を固める意図もあったのではないかと考えられます。神社には、村国氏の中興の功績者である男依(小依、雄依)やその祖先神が氏神として祀られたのです。神社の神階は正六位を振り出しに十五階位からなっています。村国神社の神階は、「美濃国神名帳」

【用語解説】

- ①姓：朝廷のもとに諸豪族が組織づけられるにつれて、政治的・社会的序列を示すものとなり、世襲されるようになった。臣、連、造、直など三十余に及び。
- ②延喜式神名帳：古代律令制の施行細則をまとめた法典の巻九・十で、当時官社に指定された全国の神社二覧。ここに記載された神社を「延喜式内社」又は「式内社」といふ。
- ③座：神社の祭神の数をあらわす。
- ④産土神社：その人の生まれた土地を守る神を祀つていふこと。
- ⑤神祇管領：律令制の下で設けられた朝廷の祭祀を司る官庁。
- ⑥宗源神旨：江戸幕府から諸国の神社に位階、神号の許状を授けることが認められていた吉田家から出された文書。神職への許状は宗源神旨といふ。

に初めて従五位の下と出てきます。この神名帳は各神社の神階の状況から見ると、恐らく十世紀以降の成立と思われる。その後、諸神への一律の神階昇叙が度々おこなわれました。その経緯を見れば、十六世紀初頭には村国神社は正三位まで上がったものと推測されます。さて、江戸時代になると、神祇管領長上の下(部)朝臣(吉田家)が宗源神旨で独自に神階を認めるようになった。ある程度の由緒を根拠に、金で積み上げられた神階の獲得も可能になりました。地方の「正位〇〇神社」の神階の中には、このように経過で手に入れたものも少なくありません。



第2回 福祉講演会

講演会・研修会

当会では、理事・評議員や近隣ケアの皆さんが日々の活動に役立てていただけるよう、福祉講演会と近隣ケアグループ研修会をそれぞれ年2回各務福祉センターで開催しています。

【福祉講演会】…当会の理事・監事・評議員対象

第1回(29年6月実施)

「各務原市の古代の焼き物『美濃須衛窯』」

講師:各務原市教育委員会 渡辺 博人氏

「認知症患者と家族を支える地域の取り組み」

講師:当会副会長 白木 充氏

第2回(30年1月実施)

「地域での支え合い活動について」

講師:市社協地域福祉課 土屋 直樹氏

【近隣ケアグループ研修会】…当会の理事役員と近隣ケアメンバー対象

第1回(29年4月実施)

「近隣ケアグループ活動について」

講師:市社協地域福祉課 森 沙弥香氏

「包括支援センターの役割と介護保険」

講師:地域包括支援センターカーサレスパート 兼松 元美氏

「市の認知症施策、介護予防について」

講師:各務原市高齢福祉課 野瀬 和子氏

第2回(29年10月実施)

「認知症予防について」

講師:地域包括支援センターカーサレスパート 清水 悦子氏

「精神障がい理解について」

講師:クラブハウスゆうせん 齊藤由衣佳氏ほか



第1回 近隣ケアグループ研修会

「表彰」

11月15日に市民会館で開かれた第51回各務原市社会福祉大会において、地域福祉功勞により、当会の桑村多鶴子氏が市社協会長表彰を受けられました。

高齢者ふれあい活動

～80歳以上の530名を対象に実施～

9月の敬老の日を前に、ささやかなお祝いの品を持って民生委員児童委員や近隣ケアが高齢者訪問を実施しました。

「日頃あまり顔を合わせない方とも、こうした機会にお会いできて良かった」と、逆に元気づけられた近隣ケアの方も。やはり「ふれあい」が大事ですね。



スクリーン紙芝居 ～地域ふれあい広場で上演中～

プロジェクターで絵をスクリーンに映し出す紙芝居を「地域ふれあい広場」で行っています。もとはA2判の絵ですが、こうすることで大勢の人が見やすくなっています。これって紙芝居?という人もいますが、中身はれっきとした紙芝居。映像は動画ではなく静止画、一つ一つの絵ごとに語りがついている、拍子木や太鼓などの鳴り物も入るといふ具合です。“今風の紙芝居”なのかも知れません。

紙芝居は3つ出来上がっています。「おがせ池龍女ものがたり」「村国男依と壬申の乱」「美濃須衛窯に生きる」という題名です。文を担当したのは長縄秀平氏、絵を描いたのは野村龍峯氏。「歴史で広がる郷土の福祉」と銘打ったプロジェクトの一環として作られたものです。もともと、地域の歴史を知ってもら



おうと始まったこのプロジェクト。各務にある素晴らしい歴史を材料に、郷土愛の醸成やふれあい、助け合い、健康づくりに繋げていこうという思いが込められています。これら紙芝居の情報を聞きつけて、他の地域からも上演の依頼が入ることがあります。昨年は、鷺沼、蘇原、那加をはじめ、犬山市でも上演させていただきました。主にボランティアハウスやサークルなどの20人～50人の集まりが多いのですが、100人以上の会もありました。市内各地や愛知県の一部は歴史上、当地と深いつながりがあり、どの会場でも興味深く鑑賞していただいています。

「須恵器音頭」をアピール 各務原市長を訪問

七月某日、澤井会長をはじめ須恵器音頭の制作関係者が市役所を訪ねました。歌は、かつてこの地が須恵器の一大生産地だったことを多くの人に知ってもらおうと作られたこと、そして作詞作曲(各務幸作氏、歌(外山貴二氏)、踊り(貴山観柳氏)を全て各務在住者で行っていること、また今後の活用への思いなども説明。市長からは、この歌と踊りが広く浸透するように、また今後の地域活性化活動への期待をいただきました。

★この歌はYouTubeへアップしています。